

平成 3 0 年度研究開発実施報告書（要約）

1 研究開発課題

「国際的視野で地域を捉える力」、「地域の課題を国際的視野で解決する実践力」および「英語をツールとしたコミュニケーション力」をグローバル社会に生きる資質・能力とし、それらを育むために地域特有の文化・歴史・自然（農業）と国際社会の動向を教材として取り入れながら、村おこし・町おこし・国際交流や様々なボランティア活動の実践を学び、それらを軸として英語の学びやその他の教科の学びを生かせるよう関連づけをした「新教科」を設定し、その系統的な教育課程、指導方法、評価に関する研究を小中高 12 年間通して行う。

2 研究の概要

小学校では農業やグリーンツーリズムなどの地域の課題・地域の実践を教材として、中学校では小学校での学習を発展させ、県内外における課題・実践を教材として課題解決的な学習活動及び体験的な学習活動を行い、単元及び教材、学習活動、学習評価を研究する。さらに、高校ではローカル、グローバル双方の視点から地球全体をとらえ、社会の一員として顕在化する課題、潜在する課題等についてその解決方法を論理的に考え、主体的に行動することを促す単元及び教材、学習活動、評価について研究する。この新教科を軸として英語及び他の教科の学びを効果的に関連づけた系統的な教育課程、学習活動、学習評価について実践研究をすることにより、国際社会で必要とされるコミュニケーション力や論理的思考力、課題解決力・実践力を持った児童生徒の育成、「村おこし・町おこし・起業・国際交流・ボランティア活動」等において地域や社会に貢献できる人材の育成を目指す。

3 研究の目的と仮説等

（1）研究仮説

12 年間の系統性を考えた新教科の構築を目的とし、地域の課題や地球規模の課題についての課題解決的及び体験的な学習活動を行うことで、児童生徒に社会の諸問題に主体的に関わろうとする意欲が涵養されるとともに論理的思考力、コミュニケーション能力、実践力等が向上し、グローバル社会を主体的に生きる人材をはぐくむことができるであろう。

（2）教育課程の特例

- ・小学校では、生活科・総合的な学習の時間から時数を充てる。
- ・中学校では週 2 時間、年間 70 時間、高等学校では週 1 時間、年間 35 時間を設定し、総合的な学習の時間から時数を充てる。

4 研究内容

（1）教育課程の内容

- ①教育課程表は【別紙 1】の通りである。
- ②KEY STAGE 制を導入し、12 年間の評価規準を作成した。その評価規準をさらに発展させた「身につけたいカー一覧表」【別紙 2】をもとに一つの教科として小中高と積み上がっていくように年間指導計画【別紙 3】を立て、連携校で取組んだ。KEY STAGE 1・2 では季節や農産物など身の周りにある地域素材を題材とし、KEY STAGE 3 ではグリーンツーリズム体験や他地域との交流・比較、KEY STAGE 4 では外国人留学生を招いた地元ツアーガイドや幼稚園児・小学生向けのゲストティーチャー活動など、体験的かつ課題解決的な学習活動を実施した。
- ③評価方法については、昨年度に引き続き、KEY STAGE ごとに統一した様式【別紙 4】でポートフォリオを集積し、ルーブリック評価を実施した。また、単元に併せて探究シートやリフレ

クッションシートなどを作成し活用する事例も確認できた。

④授業研究の実践例は以下の通りである。

KEYSTAGE	学年	テーマ
KEY STAGE 1	小1	たのしいあきをいっしょにたのしもう
	小2	にこにこま～あるくすてきなひとみつけ
KEY STAGE 2	小3	「安心院の七不思議」調査隊
	小4	伝えよう広げよう安心院の鰻絵！
	小5	作ろう！笑顔全力米！目指そう！きれいな安心院町！
KEY STAGE 3	小6	やさしさいっぱいとどけ隊！
	中1	安心院の未来をよくする方法を考えよう
	中2	安心院観光 未来プロジェクト
KEY STAGE 4	中3	安心院未来会議
	高1	「安心院・院内学」
	高2	「ゴールデンツアー」
	高3	「班（個人）研究」

（２）研究の経過（４年次）

① 新教科「地球未来科」の実施・改善に関する企画会議を以下の通り開催した。

第1回 4月5日	第2回 4月13日	第3回 4月20日	第4回 4月27日
第5回 5月11日	第6回 5月18日	第7回 6月1日	第8回 6月8日
第9回 6月15日	第10回 6月22日	第11回 6月29日	第12回 7月6日
第13回 7月27日	第14回 8月3日	第15回 8月17日	第16回 9月7日
第17回 9月28日	第18回 10月5日	第19回 10月19日	第20回 11月2日
第21回 11月30日			

② 小中高連携した実践は以下の通りである。

- ・ 本地域における小中高生の学びの実態把握
- ・ 小学生による鰻絵ツアーガイドへの高校生参加
- ・ 高校生による小学生への出前授業の実施
- ・ 高校英語科・数学科教員による中学校への乗り入れ授業の継続実施
- ・ 中学英語科教員による小学校への乗り入れ授業の継続実施

③ 研究開発を推進する取組は以下の通りである。

- ・ 小中高教頭会の設置
- ・ 新任者研修（4月16日） （目的）研究概要と30年度取組内容を周知する
- ・ 新年度チーム会議 （目的）研究の継続について検討する
- ・ 研究主任会 （目的）全校での共通理解や各校での実践を支援する
第1回 5月15日 第2回 7月12日
- ・ 小中高合同研修会 （内容）小中高実践報告及び指導案審議
- ・ 広島県立大崎海星高等学校視察 （目的）KEY STAGE3の教材開発の推進
- ・ 校内授業研究会の小中高相互参観

④ 地域や保護者との連携及び広報活動に関する取組は以下の通りである。

- ・ 小中高合同地区PTA懇談会の実施
- ・ 研究大会への保護者参観
- ・ 高校生によるこども園への出前授業の実施
(園芸マネジメントコースによる「ふれあい農園」)

⑤ 研究開発に関する評価

運営指導委員会の開催	第1回 7月19日	第2回 11月15日
小中高校長会の実施	第1回 4月 6日	第2回 5月25日
	第3回 7月11日	第4回 9月 4日
	第5回 10月24日	第6回 12月20日
	研究発表会	11月14日

(3) 評価に関する取組

ルーブリック評価による児童生徒の自己評価を集計した。概要は以下のとおりであり、単元の前中で「捉える力」や「解決する力」が向上したと考える児童生徒は増加していることから、連携校で扱う教材や単元設定は妥当であったといえる。学年末や単元末には蓄積されたポートフォリオを整理しながら、根拠を明確に自分が学んだことや成長したことを論述させるようにした。こうした積み重ねが論理的思考力につながると考えられる。

目的： 連携校での研究であることを踏まえて、児童生徒の自己評価から、指導方法の効果や妥当性を検証・整理し、評価規準の共通理解を得るとともに学習指導計画に活用するため。

実施時期： 6月～11月 2回実施

対象： 連携校の児童生徒

実施方法： ①生徒は授業終了時にポートフォリオへ自己評価を記入する。
②各校の学習活動における単元のはじめを1回目、単元の終わりを2回目として①の自己評価を集計する。

評価項目： 「捉える力」、「解決する力」

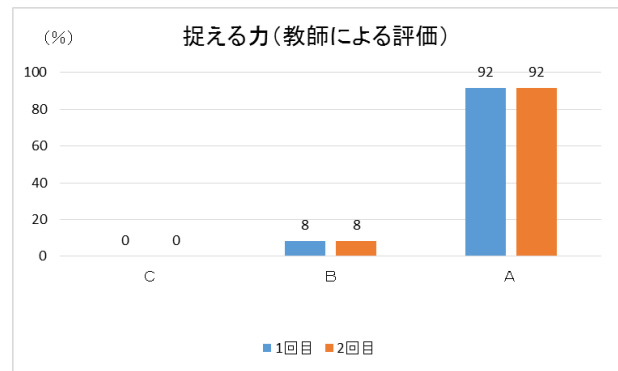
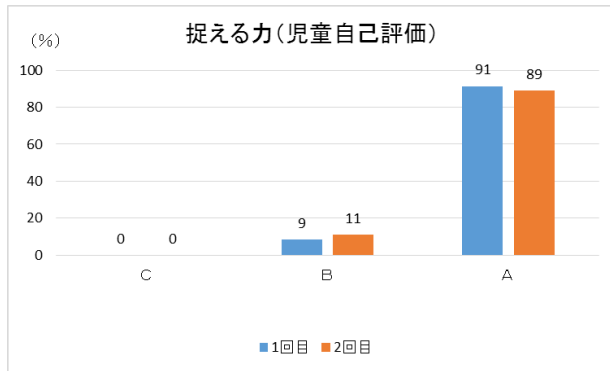
【KEY STAGE2】のルーブリック例

	学習活動	S	A	B	C
解決する力	院内の石橋のすごいところを考えよう。	院内の石橋のすごいところを、理由をつけたり、他の考えと合わせたりして、話すことができた。	院内の石橋のすごいところを、理由をつけて、話すことができた。	院内の石橋のすごいところを話すことができた。	院内の石橋のすごいところを話すことができなかった。

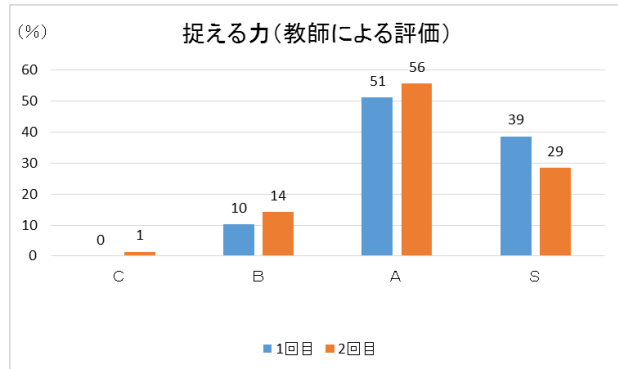
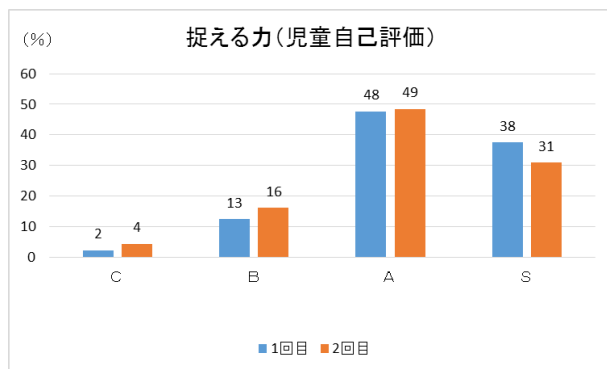
【KEY STAGE 1】 A(期待以上である) B(期待通りである) C(努力を要する)

【KEY STAGE 2～4】 S(期待以上であり+αがみられる) A(期待通りである)
B(おおむね期待通りである) C(努力を要する)

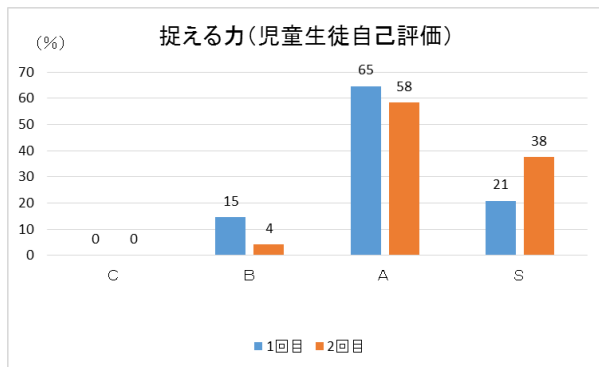
【捉える力 KEY STAGE 1】



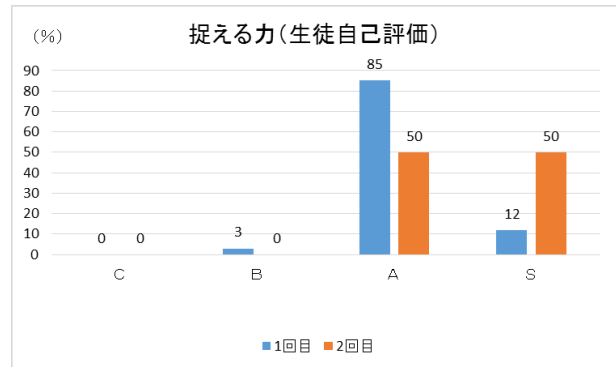
【捉える力 KEY STAGE 2】



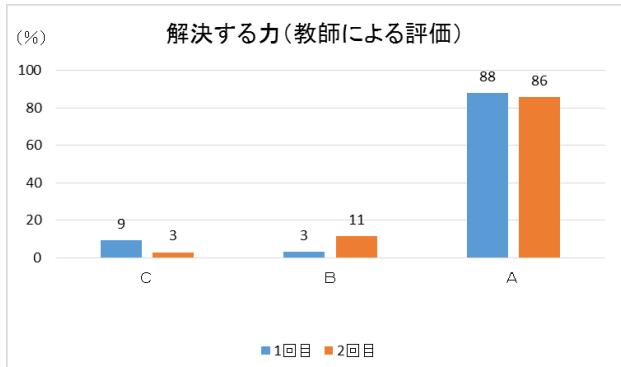
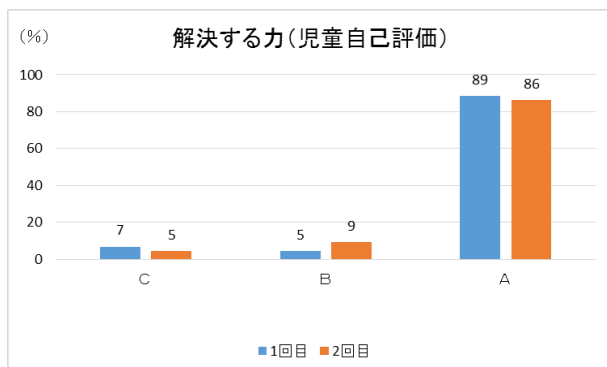
【捉える力 KEY STAGE 3】



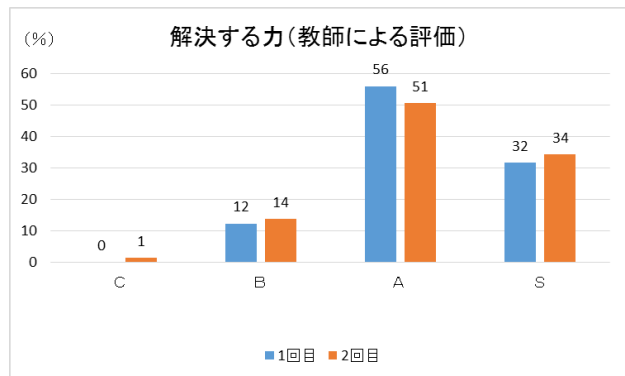
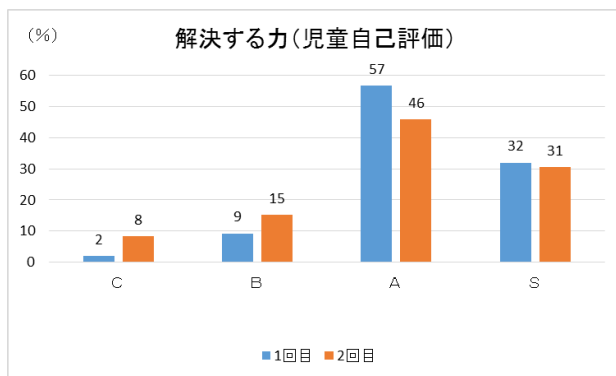
【捉える力 KEY STAGE 4】



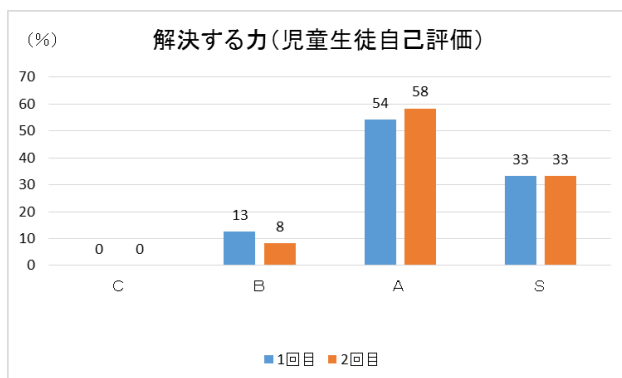
【解決する力 KEY STAGE 1】



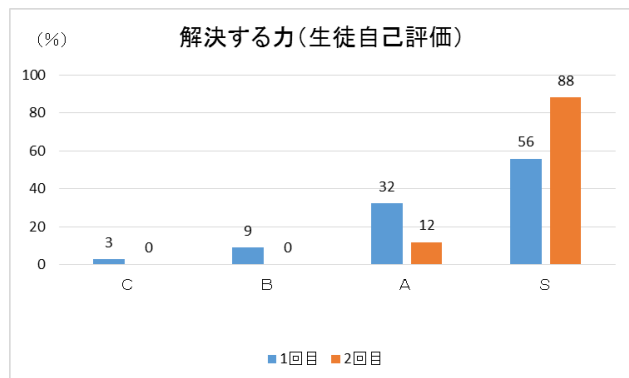
【解決する力 KEY STAGE 2】



【解決する力 KEY STAGE 3】



【解決する力 KEY STAGE 4】



5 「研究開発の成果」

(1) 実施による効果

1) 児童生徒への効果

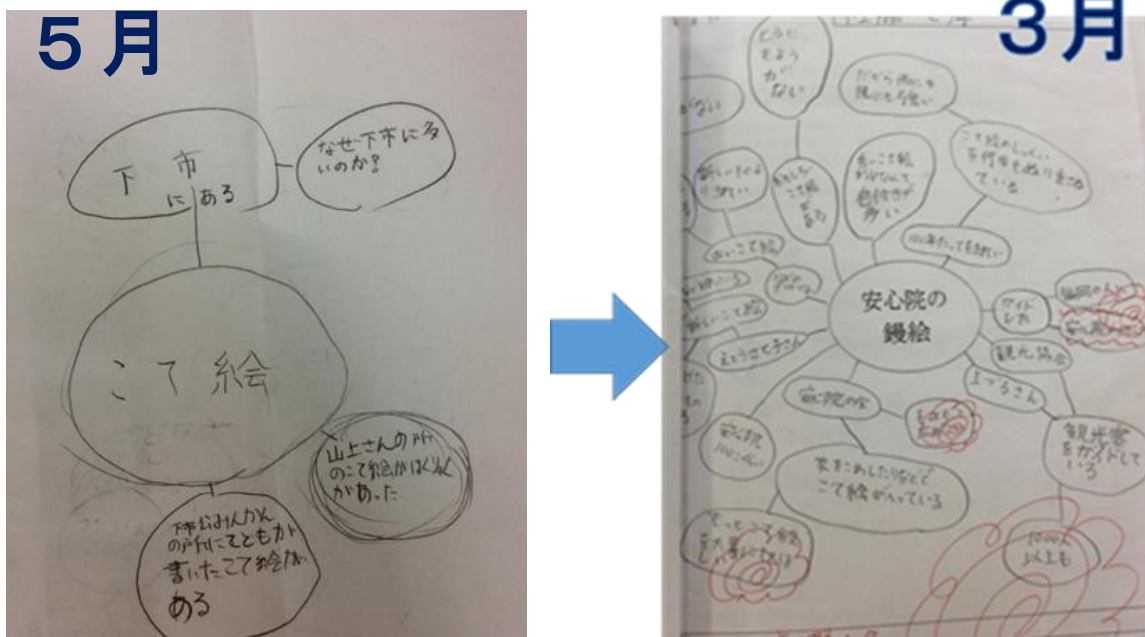
これまでの実践から、各学校で扱う教材や学習内容は固定化されてきたが、それは緩やかで変更も可能なものである。取組内容は児童生徒の実態や興味に合わせて毎年見直しをして取り組むようにしてきた。しかし、興味がありそうだからと言うだけでは、児童生徒たちは主体的にはならない。本気で「解決したい」「もっと知りたい」「もう1回行ってみたい」と児童生徒たち自身が思うような工夫が必要であり、そのKEY STAGE ごとの事例を以下に示す。また、最終年度から行っている異年齢集団によるゲストティーチャー活動では、児童生徒の「主体的態度」と「解決する力」の育成に効果的であることが、児童生徒のアンケートや授業中の見取りなどからわかってきた。12年間の出口にある高3生徒の進路意識にも変化が見られ、2017年度と2018年を比較すると具体的に地域社会への貢献を意識した進路を選択する生徒の増加が特徴的であった。

【KEY STAGE 1】

年長さんとのふれあいをきっかけにして、お兄さんお姉さんになった自分たちが来年入学する年長さんたちを「おせたい」する取組をした。自分たちが楽しむことから、年長さんを楽しませたいという相手を意識した課題により、目的意識が広がった(小1)。思考ツールの活用については、ウェビングでイメージを広げる「Xチャート」で仲間分けをする等の活動をした。視覚化されることでグループでの活発な話し合いはできたが、全体での交流場面では、飽きてしまうような児童も多かった。黒板を思考ツール代わりに、学級全体で比べたりつなげたりできるような工夫が必要である。

【KEY STAGE 2】

安心院の鍍絵について調べる中で、鍍絵の価値やそれを大切に守り広げていこうとする地域の人の思いや願いを学ぶ一方、思ったほど鍍絵を見に来る観光客の数は多くなかったという事実を知り、愕然とした。そして、「何とかしたい」「安心院の自慢である鍍絵を広げたい」という切実感のある課題が生まれた。自分たちの思いと現実とのズレや隔たりを子どもたちが感じたときに、本気で「解決したい」と思うことが明らかになった（小4）。思考ツールの活用については、「比べる」「関連付ける」「多面的・多角的にみる」などの考える技を示すようにした【別紙5】。また、子どもたち自身の判断により思考ツールを選択・複合的に使う様子が確認でき、経験を重ねることによる思考力の深まりが見られた。引き続き、発達段階に合わせた思考ツールの活用を継続していきたい。



ポートフォリオを整理しながら5月のウェビングと学年末3月のウェビングをビフォーアフターの視点で比べると、鍍絵のよさ、町や人の良さについての多くのことを学んだことが分かる。

【KEY STAGE 3】

『安心院の未来予想図を作ろう』という単元を設定し、地域に住む人たちの思いや願いを調べていった。年代別にわけてアンケートをとり、中学生がこれからの安心院町に期待していることと、大人や高齢者が期待していることを比較検討することで論理的に思考し、より具体的に実現可能な提言へ繋げることができた（中1）。

【KEY STAGE 4】

外国人向けに行われる「ゴールデンツアー」では、事前に生徒が考案した地元ツアーを留学生へプレゼンテーションし、修正改善を加える。ツアーガイド実施後、報告会をすることで学年全員による振り返りの時間を確保した。ツアー現場では事前に準備したことを使いながら状況に応じて解決する姿や、実践の積み重ねにより生徒に自信が付き、それが主体的態度やコミュニケーション力の育成に繋がる様子が確認できた（高2）。

2) 教師への効果

- ①「地球未来科」を中心とした教科横断型授業への取組を、教科担当制である高校においてスクールプランに掲げたことで、個人レベルでの授業改善に繋げることができた。

- ②「地球未来科」に関する小中高合同研修会を開くことで、連携校職員全体で俯瞰的な視点に立った教育活動をイメージすることができ【別紙6】、校種の隔たりを超えるような異年齢集団における学習活動の展開に繋げることができた【別紙7】。
- ③研究が進むに連れて、県外にある地域の連携教育に取り組む学校と交流を深めることができた。これにより中学校では他地域との比較により批判的思考力を育成するような教材開発に取り組むことができたり、高校では全国でどのような連携教育が実践されているかを「知る」きっかけになった。今後地域の連携教育について他の事例を「知ること」から「意見交換や議論」にまで発展させるための段階を踏むことができた。
- ④高校では新学習指導要領にあるように各教科に探究科目が設定され、科目内で探究活動や合教科型授業の展開を完結させることも可能となる。そのため、総合的な探究の時間をどのように扱うかについては、学校間で異なり幅も広がることが予想される。総合的な学習の時間を充てている「地球未来科」では教育活動の視点が学校内での展開にとどまらず、連携した枠組みの中にあり、より幅のある深い学びに繋がる。このような視点に教科担当制色の強い高校現場の教員が触れることは新学習指導要領のもとでの探究活動や総合的な探究の時間を考える礎となる。

3) 保護者への効果

小中高の職員の参加体制を整え、各小学校区で地区懇談会を開いたり、地球未来科の授業で地域の方による出前授業や取材などを生徒と共に活動する場面を多く設定した。また、安心院・院内地域は高齢化率44%の高齢過疎地域であり児童生徒数は減少しているが、地域外からの安心院高校への進学希望者が増加しており入学定員を大きく下回ることはない。これは本地域の教育活動が地域から地域外へ認知されている成果といえる【別紙8】。

(2) 研究実施上の問題と今後の課題

1) 組織の改善

① KEY STAGEをつなぐ取組について

KEY STAGEが当初の目標設定に対して十分に機能していないことが挙げられる。連携教育は地域に点在する小学校間及び中学校間の横の連携を踏まえた上で、縦の連携が可能となる。そのため小中高合同研修会や校種別部会を設定し組織的な取組を進めてきた。結果として、入口のはっきりしている小学校と出口の見えている高校では「身につけたい力一覧」に沿って目指す児童生徒像が明確化し、単元計画も軌道に乗ってきているが、KEY STAGEをつなぐ中学校では模索が続き、中学校同士の横の連携がとれるようになったのが最終年度であった。ポートフォリオの形式や評価方法をそろえるなどの統一した取組はできているが、KEY STAGE3における継続的かつ連続性のある成果がまだ見えない。来年度よりKEY STAGE4において4年間通した単元設定が可能になるが、同様にKEY STAGE3で中学校が要となり横と縦の足並みがそろった時に、次の段階としてKEY STAGEが生きてくると考えられる。

② 連携校と連携教育の捉え方

連携校として設置された学校は、その地域における連携教育の在り方について共通認識を持ち、教育活動に取り組む必要がある。特に、地域のコーディネーター等が配置されておらず、学校現場が主体となる本地域では、各学校のリーダーである管理職の共通認識は「地球未来科」を柱とした教育活動の推進に必然であり、適切な助言により各校の研究や連携教育が深まる。そのため、次年度から実践部会に校長間の意識統一と研修を目的とした校長部会を設定する。組織的な取組を定着させることは、諸条件が変化しても持続性のある教育活動に繋がる。

2) 教科に関する課題

① KEY STAGEの区切りについて

【別紙1】教育課程表

安心院・院内地域7小学校 教育課程表（平成30年度）

	各教科の授業時数									道徳	特別活動	総合的な学習の時間	外国語活動	地球未来科	総授業時数
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育						
第1学年	306 0	* 0	136 0	* 0	0 (-102)	68 0	68 0	* 0	102 0	34 0	34 0	* 0	* 0	102 (+102)	850 0
第2学年	315 0	* 0	175 0	* 0	0 (-105)	70 0	70 0	* 0	105 0	35 0	35 0	* 0	* 0	105 (+105)	910 0
第3学年	245 0	70 0	175 0	90 0	* 0	60 0	60 0	* 0	105 0	35 0	35 0	0 (-70)	* 0	70 (+70)	945 0
第4学年	245 0	90 0	175 0	105 0	* 0	60 0	60 0	* 0	105 0	35 0	35 0	0 (-70)	* 0	70 (+70)	980 0
第5学年	175 0	100 0	175 0	105 0	* 0	50 0	50 0	60 0	90 0	35 0	35 0	0 (-70)	35 0	70 (+70)	980 0
第6学年	175 0	105 0	175 0	105 0	* 0	50 0	50 0	55 0	90 0	35 0	35 0	0 (-70)	35 0	70 (+70)	980 0
合計	1461 0	365 0	1011 0	405 0	0 (-207)	358 0	358 0	115 0	597 0	209 0	209 0	0 (-280)	70 0	487 (+487)	5645 0

安心院・院内地域2中学校 教育課程表（平成30年度）

	各教科の授業時数									道徳	総合的な学習の時間	特別活動	地球未来科	総授業時数
	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術家庭	外国語					
第1学年	140	105	140	105	45	45	105	70	140	35	0 (-50)	35	50 (+50)	1015
第2学年	140	105	105	140	35	35	105	70	140	35	0 (-70)	35	70 (+70)	1015
第3学年	105	140	140	140	35	35	105	35	140	35	0 (-70)	35	70 (+70)	1015
計	385	350	385	385	115	115	315	175	420	105	190 (-190)	105	190 (+190)	3045

【別紙2】身に付けたい力一覧表

地球未来科目標		地域の課題や地球規模の課題についての、課題解決的、体験的な学習を通して、「社会の諸問題に生きようとする児童生徒」の資質能力を次のように育成する。						
		(A)「国際的視野で地域を捉える力」…地域のひと・もの・ことに関わったり、地域と世界とを比べたりしながら視野を		(B)「地域の課題を国際的視野で解決する(工夫する)力」…地域の課題を設定し、必要な情報を収集・選択・活用し		(C)「英語をツールとしたコミュニケーション力」…自他の違いに気づき、相手に適切に伝えたり相手の言葉を適切に		
段階		小1	小2	小3	小4	小5	小6	
視点		身近な体験を通して学ぶ導入期			表現方法や気づきの基礎を作る育成期		学ぶ方	
つけたい力・視点		自分と身の周り						
		具体的なつけたい力～何ができるようになるか						
A 捉える (関わる) 力	1	関心・意欲	・具体的に身近なひと・もの・ことに関わる活動に進んで関わり、自分と社会や自然とのかわりに関心をもつ。	・「？」を意識して身近なひと・ものことと主体的に関わり、相手意識・目的意識を持ちながら、自分なりに工夫して繰り返し活動する。	・身近なひと・もの・ことと関わりながら繰り返し活動する。	・身近なひと・もの・ことと関わりながら繰り返し活動する。	・身近なひと・もの・ことと関わりながら繰り返し活動する。	
		生活に生かす・主体的	・自分と身近なひと・もの・ことに関心を持って、意欲的に生活や学習をする。	・自分と地域社会とのつながりに気づき、地域に役立つ活動をする。	・自分と地域社会とのつながりに気づき、地域に役立つ活動をする。	・自分と地域社会とのつながりに気づき、地域に役立つ活動をする。	・自分と地域社会とのつながりに気づき、地域に役立つ活動をする。	
	2	協働	・自分たちの良さを出し合って活動する。	・友だちと力を合わせ協働する楽しさを味わい、その良さに気づく。	・友だちや地域の人の解決に向けての	・友だちや地域の人の解決に向けての	・友だちや地域の人の解決に向けての	・友だちや地域の人の解決に向けての
		他者理解・(国際的視野(の芽生え))	・友だちの存在やよさ、周りの人の支えに気づく。	・他者の良さを知り、外国の人を含めて相手の立場に立って考えることができる。	・他者の良さを認め	・他者の良さを認め	・他者の良さを認め	・他者の良さを認め
	3	自己理解 振り返り(自分自身)	・集団生活に馴染み、集団における自分自身の存在に気付く。 ・自分自身の成長に気付く。	・振り返りを通して、自分のよさやできること、成長したこと、自分らしさに気付く。	・振り返りを通して、自分のよさやできること、成長したこと、自分らしさに気付く。	・振り返りを通して、自分のよさやできること、成長したこと、自分らしさに気付く。	・振り返りを通して、自分のよさやできること、成長したこと、自分らしさに気付く。	
	4	課題の捉え 事実的知識・概念	・自分と身近な人々、社会及び自然に親しみの気持ちや愛着をもつ。 ・自分の周りには何があるのかを知り、それと自分とのかわりを理解する。	・地域には何があるのか、地域の特徴・新しい価値を見つける。 ・地域の暮らしやそこで生活する人たちの思いや願いを知り、連携協力して実現しようとしていることを知る。	・地域の自然・文化から、解決すべき課題を解決	・地域の自然・文化から、解決すべき課題を解決	・地域の自然・文化から、解決すべき課題を解決	
B 解決する 力	1	課題発見・課題設定 であらみつける (願いを持つ)	・対象との出会いや具体的な活動や体験とおして、自分の思いや願いをもつ。	・生活や学習の中の疑問や驚きから問題に気づいたり、自分たちが暮らす地域に目を向け、経験や既習事項と関連させて考え、課題を作る。	・自分たちを取り巻く	・自分たちを取り巻く	・自分たちを取り巻く	
	2	情報収集 (活動する)	・家族や地域の人に聞いたり、資料を集めたりする。 ・図書室の本などから見つける。 ・見る、聞く、触れる、作る、探す、育てる、遊ぶなどして、直接働きかける。	・目的に応じた対象を決めて、自分たちの身近なところから資料や情報を集める。 ・聞き取りやアンケートで情報を集める。 ・パンフレットやインターネットなどから情報を集める。 ・大切なところにアンダーラインを引く。 ・必要な情報を選んで、メモや写真などの情報を記録を残す。	・目的に応じた対象	・目的に応じた対象		
	3	整理・分析 スキル (感じる考える)	・ウェビングなどの簡単な思考ツールや、比べる・分ける・つなげる・たとえるなどの考える技を使って考える。 ・生活上必要な習慣や技能を身に付ける。	・視点を明確にして 比較、分類、関連づけなどの思考スキルを使い、適切な思考ツールを活用して考える。 ・情報を比較・分類するなど、探究の過程に応じた思考スキル・思考ツールを身に付ける。	・視点を明確にして	・視点を明確にして		
	4	まとめ 表現 (表現する・行為する)	・言葉、絵、動作、劇化などによって表現する。 ・相手を意識して、(楽しめるように)働きかける。 ・活動を通して気付いたことや楽しかったことなどを、順序よく相手を意識して話す。	・観察や聞き取りなどで調べたことを自分なりにまとめた表やグラフを使って整理して表す。 ・他者の考えを尊重しながら、自分の考えをまとめ、他者にわかりやすく発信する。 ・相手や目的に応じて、多様な方法で表現しようとする。 ・組み立てを考え、中心をはっきりさせて発表する。	・活動の過程や結果を整理して表す。	・活動の過程や結果を整理して表す。		
	5	振り返り(学習方法や内容)	・体験や活動を振り返り、次の活動に活かす。	・友だちとともに観点を明確にして活動を振り返り、次の活動に生かす。	・次の活動を意識し	・次の活動を意識し		
		コミュニケーション(スキル)	・活動を通して気付いたことや楽しかったことなどを、順序よく相手を意識して話す。	・相手や目的に応じて、多様な方法で表現しようとする。 ・組み立てを考え、中心をはっきりさせて発表する。	・相手や目的に応じて	・相手や目的に応じて		
		言葉、絵、動作、劇化など		絵、図や表、絵地図、地図、写真、動画、文章、イラスト、ポスター、				
C 英語を ツールとした コミュニケーション力	1	表現 コミュニケーション (KEY STAGE1, 2) 慣れ親しみ (KEY STAGE3, 4) speaking writing プレゼンテーション	・配当単語を使った学習活動(歌やチャンツ・ゲームなど)を通して楽しむ。 ・簡単なあいさつができる。	・配当単語を使った学習活動(歌やチャンツ・ゲーム)などを通して楽しむ。 ・(I like~, What do you ~?) などの簡単な表現を使って、やり取りができる。 ・学校や地域の良さを(I like~, This is ~)などの英語活動等で学習した簡単な表現方法で伝えようとする。	・教科で学習した英	・教科で学習した英		
	2	国際的視野	・ALTとの交流を通して、外国の遊びと日本の遊びの似ているところや違いを感じながら楽しむ。	・ALT等との交流を通して、外国との違いや似ているところを見つけたり、地域や自国の文化に親しみを感じたりする。	・ALT等との交流を	・ALT等との交流を		

社会の諸問題に関わろうとする意欲をもち、論理的思考とコミュニケーション力を駆使し、グローバル社会を主体的に

りながら視野を広げ、多様な情報の中から、地域のよさや課題を見つけることができる。
 集・選択・活用しながら解決の方向性を導き出し、自他の役割を考えながら協力して主体的に行動できる。
 の言葉を適切に理解したりすることにより、言語や国籍を超えて人間関係を築いたり、国際的視野で思考したりすることができる。

小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
KEY STAGE3			KEY STAGE4			
学ぶ方法や探究的な態度を育成する充実期			論理的思考力・表現力・課題解決力を育成する発展期			
身近な地域と他の地域			世界の中の両院			
できるようになるか(地球未来科で目指す各段階での具体的児童生徒の姿)						
・身近なひと・もの・ことと広い視野で向き合い、課題意識を持って自分なりの工夫をしながら繰り返し活動し、解決のために積極的に取り組もうとする。			・世界の中の両院の視点から、設定した課題を解決するための方法を工夫し、主体的、積極的に課題解決のために考えたり、社会参画したりしようとする。			
・活動内容を自分なりに広げたり、深めたりしながら、他者や地域社会とともに学んだことを実践していこうとする。			・世界の中の両院の視点を持って広い視野で身近な問題と向き合い、解決策を発信し、実社会の問題解決に取り組む。(社会参画)			
・友だちや地域の人・関係機関と力を合わせて協働する大切さに気づき、問題の解決に向けての取り組みを成し遂げる喜びを感じる。			・グループや地域の人、関係機関等とつながりを深め、協力して課題解決のための案を練ったり、積極的に活動したりする。			
・他者の良さを認め、外国の人を含めて異なる他者を受け入れながらとり組むことができる。			・他者の良さや違いを認め伝え合ったり、活動を通して出会った外国の文化や習慣の違い等を尊重したりすることができる。			
・振り返りを通して、自分の特徴や可能性に気づき、それを発揮するとともに将来の生き方につなごうとする。			・振り返りを通して身についた力を自覚することで、自分の可能性に気づき、進路選択等将来の生き方につなごうとする。			
・地域の自然・文化・産業等の価値を価値を探るとともに、他地域との違いから、解決すべき課題を見つける。 ・地域の課題を解決・克服するために様々な人が関わって活動していること、他地域と関わりながら価値を高めていこうとしていることを知る。			・世界の諸地域との比較や社会の変化に目を向け、地域の特性を考察することにより、地域の価値や解決すべき課題を見つける。 ・地域の自然・文化・産業等には限りがあり、課題解決のために様々な人がビジョンを描いて維持・継続・更新のために努力していることを知る。			
・自分たちを取り巻く社会に目を向け、経験や既習事項と関連させたり、多面的に見つめたりして考え、課題をつくる。			・自分たちを取り巻く社会に広く目を向けて、対象を多面的に捉え、活動の意図や目的を明確にししりて課題を設定できる。 (既知の課題ではないか、社会や地域的に意義があるか、自分たちの興味関心や探究したい課題か)			
・目的に応じた対象を決めて、目的に応じた方法で効果的・効率的に資料を集める。(アンケート、インタビュー、実験、観察、実地調査など) ・他者の意見や課題解決の方向性から、必要な情報を取捨選択する。			・説明する、共同作業を行うなど直接的な関わりを持つ。 ・仮説立てと検証の目的を持って、情報収集の計画を立て、実験、観察、実地調査、アンケート、インタビューなどを行う。 ・客観的なデータが得られる方法を選択し、活動や発表の強い論拠となるようにする。			
・視点を明確にして、他の情報と比較したり体験したことと資料を効果的に関連づけたりして考え、社会・経済などの視点から、多面的・総合的に考える。			・量的な情報を、適切に整理・分析・加工し、相手に分かりやすい見せ方の工夫をする。 ・社会、経済、国際交流などの視点から複雑に絡み合っている情報を、多面的総合的に整理して考える。			
・情報を比較・分類・関連付ける・多面的に見るなど、探究の過程に応じた技能を身に付ける。(思考ツールの選択活用→独自の思考ツールや表→思考ツールなしで考える)			・情報を取捨選択し、他者の意見や主張を建設的に評価したり、多面的なものの見方考え方を身につける。(探究の過程に応じた適切な思考ツールを活用したり、創造したりして、情報を整理する。→思考ツールなしで考える)			
・活動の過程や結果、成果などを学んだことを使って、工夫しながらわかりやすく整理して表す。 ・他者の考えを尊重しながら、自分の考えをまとめ、他者にわかりやすく発信する。			・ツアーや協働プランなど実践的な場面を想定し企画するとともに、効果的に実行する。 ・地域や関係機関・関係者等他者から得た情報や考えを考慮しながら、学んだことの成果・提言など自分の考えをまとめ、発信する。			
・相手や目的に応じて、効果的な方法を選択して、表現しようとする。 ・資料等を効果的に使ったり、比喩などの表現方法等を交えたりしながら、意図を明確にして発表する。			・相手や目的・意図に応じ、効果的に表現し、相手の理解を得ることができるようにする。 ・資料を効果的に使ったり、比喩などの表現技法を適切に交えたりしながら、より相手に伝わりやすい話ができるようにする。			
・イラスト、ポスター、新聞、フリップボード、レポート、HP、討論会、スピーチ、プレゼンテーション、パネルディスカッション、ポスターセッション、ツアー など						
・次の活動を意識して、成果や課題をもとに観点を明確にして学習の仕方や活動を振り返り、次の学習に活かす。			・振り返りの中で明らかになったことを論拠として、国際的視野に立った問題の解決のために自分と地域、社会をつなげて考えることができる。			
・相手や目的に応じて、効果的な方法を選択して、表現しようとする。 ・資料等を効果的に使ったり、比喩などの表現方法等を交えたりしながら、意図を明確にして発表する。			・相手や目的・意図に応じ、効果的に表現し、相手の理解を得ることができるようにする。 ・資料を効果的に使ったり、比喩などの表現技法を適切に交えたりしながら、より相手に伝わりやすい話ができるようにする。			
・教科で学習した英語表現を使って、簡単な日本語を英語に言い換えてみる。 ・地域の情報(特徴や魅力)や自分の意見をまとめた英語で表現し、伝えることができる。 ・英語での質問に答えたり、相手に質問したりする。			・既習内容を活用しながら表現方法を考え、伝えることができる。 ・ALTや留学生等と国際的視野(柔軟で多面的な思考)で協働プランを実践できる。 ・留学生や観光客との交流を通して、簡単なQ&Aができる。			
・ALT等との交流を通して得た国際的な情報をもとに多様な視野を持って考えることができる。			・留学生等との交流を通して、文化や習慣、考え方の違いを尊重し、寛容な態度と広い視野で考えることができる。			

【別紙3】年間指導計画 (KEYSTAGE 1 抜粋)

KEY STAGE1 安心院小学校 第1学年 年間指導計画

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
捉える(関わる)力・解決する力	<p>【捉える(関わる)力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校探検をすることによって、学校の施設の様子、学校を支えている人々や友だちのことが分かり、学校生活への意欲をもつことができる。 ○多くの人が学校を支えていることが分かり、安心して遊びや生活ができることが分かる。 <p>【解決する力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校探検で気づいたことを言葉や絵で表現し、発表し合うことができる。 ○ルールやマナーを身につけることができる。 	<p>【捉える(関わる)力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○夏の自然に関心をもち、夏の自然を利用してみんなで楽しく遊ぶことができる。 <p>【解決する力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○夏の草花や虫を観察したり夏草の草花で工夫して遊んだりすることができる。 ○水を使った遊びを考え、友だちと比べたり、繰り返し試したりしながら、自分なりに工夫して遊ぶことができる。 	<p>【捉える(関わる)力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○虫や動物を観察することで、その生育環境を知り、生き物は生命をもっていることに気づくことができる。 <p>【解決する力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○採集した虫を観察したり、図鑑で調べたりして、カードに絵や文で記録することができる。 ○アフリカサンファリの動物とふれあい、獣医さんのお話を聞いて、動物のことを絵や文でまとめることができる。 ○友だちや保護団さんに紹介したい動物や昆虫を決め、自分が伝えたい方法(クイズ、記録カード、絵等)を選び、表現することができる。 	<p>【捉える(関わる)力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○夏から秋になって自然の様子が変化したり、季節によって生活の様子が変わったりしていることや身近な自然を利用して遊びを作り出す面白さに気づくとともに、それらを伝え合い、交流することの楽しさを感じることが出来る。 ○自分がおもちゃや遊び方をさらに工夫したり、相手の喜びを実感したりすることで、人と関わることの楽しさやわかり、自分自身の成長に気づくことができる。 <p>【解決する力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○秋の草花や樹木・虫などに関心をもち、それらを観察して気づいたことを発音したり記録カードに書いたりできる。 ○集めた自然物を利用して作ってみたいおもちゃや楽器を作ったり、真立でたりして、工夫しながらおもちゃや楽器を作ることができる。 ○相手が園児であることを考え、おもちゃや遊び方のルールを工夫して、一緒に遊ぶことができる。 	<p>【捉える(関わる)力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○入学してから自分が大きく育ったこと、できるようになったこと、役割が増えたことなどに気づくことができる。 ○自分や友だちのよさがわかるとともに、内面的な成長や自分たちがこれからも成長できることに気づくことができる。 <p>【解決する力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分自身の成長に関心をもち、自分の成長を振り返るとともに、その手がかかりを見つけたり集めたりしようとしている。 ○自分が入学した頃のことを振り返り、その気持ちを思い出しながら、伝え方や語り方などを工夫して新しい1年生を迎える準備をしている。 ○自分の成長に希望を持ち、2年生での生活や学習について考え、友だちに話し合うことができる。 	<p>【捉える(関わる)力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○入学してからの自分が大きく育ったこと、できるようになったこと、役割が増えたことなどに気づくことができる。 ○自分や友だちのよさがわかるとともに、内面的な成長や自分たちがこれからも成長できることに気づくことができる。 <p>【解決する力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分自身の成長に関心をもち、自分の成長を振り返るとともに、その手がかかりを見つけたり集めたりしようとしている。 ○自分が入学した頃のことを振り返り、その気持ちを思い出しながら、伝え方や語り方などを工夫して新しい1年生を迎える準備をしている。 ○自分の成長に希望を持ち、2年生での生活や学習について考え、友だちに話し合うことができる。 	<p>【捉える(関わる)力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○入学してからの自分が大きく育ったこと、できるようになったこと、役割が増えたことなどに気づくことができる。 ○自分や友だちのよさがわかるとともに、内面的な成長や自分たちがこれからも成長できることに気づくことができる。 <p>【解決する力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分自身の成長に関心をもち、自分の成長を振り返るとともに、その手がかかりを見つけたり集めたりしようとしている。 ○自分が入学した頃のことを振り返り、その気持ちを思い出しながら、伝え方や語り方などを工夫して新しい1年生を迎える準備をしている。 ○自分の成長に希望を持ち、2年生での生活や学習について考え、友だちに話し合うことができる。 	<p>【捉える(関わる)力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○入学してからの自分が大きく育ったこと、できるようになったこと、役割が増えたことなどに気づくことができる。 ○自分や友だちのよさがわかるとともに、内面的な成長や自分たちがこれからも成長できることに気づくことができる。 <p>【解決する力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分自身の成長に関心をもち、自分の成長を振り返るとともに、その手がかかりを見つけたり集めたりしようとしている。 ○自分が入学した頃のことを振り返り、その気持ちを思い出しながら、伝え方や語り方などを工夫して新しい1年生を迎える準備をしている。 ○自分の成長に希望を持ち、2年生での生活や学習について考え、友だちに話し合うことができる。 	<p>【捉える(関わる)力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○入学してからの自分が大きく育ったこと、できるようになったこと、役割が増えたことなどに気づくことができる。 ○自分や友だちのよさがわかるとともに、内面的な成長や自分たちがこれからも成長できることに気づくことができる。 <p>【解決する力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分自身の成長に関心をもち、自分の成長を振り返るとともに、その手がかかりを見つけたり集めたりしようとしている。 ○自分が入学した頃のことを振り返り、その気持ちを思い出しながら、伝え方や語り方などを工夫して新しい1年生を迎える準備をしている。 ○自分の成長に希望を持ち、2年生での生活や学習について考え、友だちに話し合うことができる。 	<p>【捉える(関わる)力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○入学してからの自分が大きく育ったこと、できるようになったこと、役割が増えたことなどに気づくことができる。 ○自分や友だちのよさがわかるとともに、内面的な成長や自分たちがこれからも成長できることに気づくことができる。 <p>【解決する力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分自身の成長に関心をもち、自分の成長を振り返るとともに、その手がかかりを見つけたり集めたりしようとしている。 ○自分が入学した頃のことを振り返り、その気持ちを思い出しながら、伝え方や語り方などを工夫して新しい1年生を迎える準備をしている。 ○自分の成長に希望を持ち、2年生での生活や学習について考え、友だちに話し合うことができる。 	<p>【捉える(関わる)力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○入学してからの自分が大きく育ったこと、できるようになったこと、役割が増えたことなどに気づくことができる。 ○自分や友だちのよさがわかるとともに、内面的な成長や自分たちがこれからも成長できることに気づくことができる。 <p>【解決する力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分自身の成長に関心をもち、自分の成長を振り返るとともに、その手がかかりを見つけたり集めたりしようとしている。 ○自分が入学した頃のことを振り返り、その気持ちを思い出しながら、伝え方や語り方などを工夫して新しい1年生を迎える準備をしている。 ○自分の成長に希望を持ち、2年生での生活や学習について考え、友だちに話し合うことができる。 	<p>【捉える(関わる)力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○入学してからの自分が大きく育ったこと、できるようになったこと、役割が増えたことなどに気づくことができる。 ○自分や友だちのよさがわかるとともに、内面的な成長や自分たちがこれからも成長できることに気づくことができる。 <p>【解決する力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分自身の成長に関心をもち、自分の成長を振り返るとともに、その手がかかりを見つけたり集めたりしようとしている。 ○自分が入学した頃のことを振り返り、その気持ちを思い出しながら、伝え方や語り方などを工夫して新しい1年生を迎える準備をしている。 ○自分の成長に希望を持ち、2年生での生活や学習について考え、友だちに話し合うことができる。 	<p>【捉える(関わる)力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○入学してからの自分が大きく育ったこと、できるようになったこと、役割が増えたことなどに気づくことができる。 ○自分や友だちのよさがわかるとともに、内面的な成長や自分たちがこれからも成長できることに気づくことができる。 <p>【解決する力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分自身の成長に関心をもち、自分の成長を振り返るとともに、その手がかかりを見つけたり集めたりしようとしている。 ○自分が入学した頃のことを振り返り、その気持ちを思い出しながら、伝え方や語り方などを工夫して新しい1年生を迎える準備をしている。 ○自分の成長に希望を持ち、2年生での生活や学習について考え、友だちに話し合うことができる。
英語(12時間)	【英語をツールとしたコミュニケーション】(楽しむ)	【英語をツールとしたコミュニケーション】(楽しむ)	【英語をツールとしたコミュニケーション】(楽しむ)	【英語をツールとしたコミュニケーション】(楽しむ)	【英語をツールとしたコミュニケーション】(楽しむ)	【英語をツールとしたコミュニケーション】(楽しむ)	【英語をツールとしたコミュニケーション】(楽しむ)	【英語をツールとしたコミュニケーション】(楽しむ)	【英語をツールとしたコミュニケーション】(楽しむ)	【英語をツールとしたコミュニケーション】(楽しむ)	【英語をツールとしたコミュニケーション】(楽しむ)	【英語をツールとしたコミュニケーション】(楽しむ)	
関連する教科等	あいさつ等 Greetings	What is your name? My name is	What is your name? My name is	What is your name? My name is	What is your name? My name is	What is your name? My name is	What is your name? My name is	What is your name? My name is	What is your name? My name is	What is your name? My name is	What is your name? My name is	What is your name? My name is	
行事や関連	おむかえ遠足	オープン戦	プール開き	運動会	社会見学	教育文化祭	持久走大会	卒業式					
地域	おむかえ遠足	オープン戦	プール開き	運動会	社会見学	教育文化祭	持久走大会	卒業式					

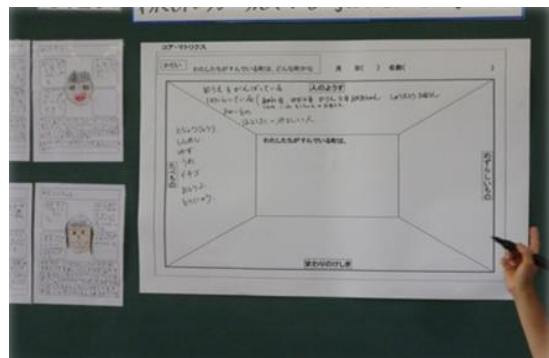
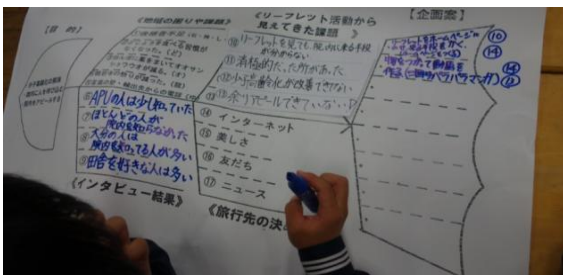
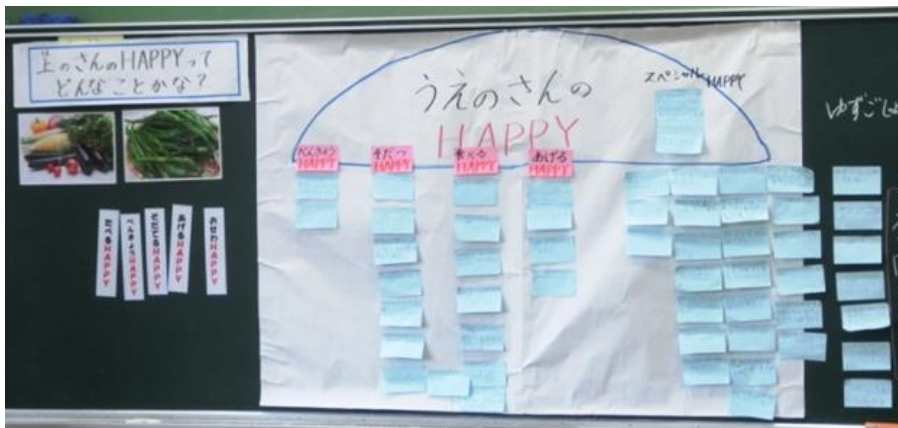
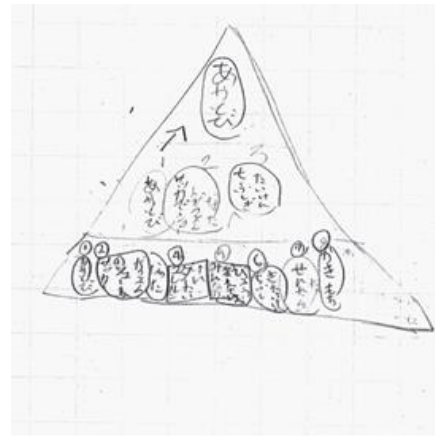
安心院小学校
人権教育
安心院文化祭

夏休み
盆地祭

ワイン祭り

卒業式

【別紙5】連携校での思考ツールを活用した様子



【別紙6】小中高で連携した場面設定 ～修学旅行の活動の様子～

小学生 長崎でピースメッセージをもらう学習活動



KEY STAGE 2の3年生では、安心院七不思議を知らせる看板作りをする際、安心院に来る海外からの観光客のことも考えて、日本語・英語・ハングルの3カ国語併記のものを作った。4年生では、鏝絵の写真を見せながら、色や形、動物の名前などの英単語を使ったクイズをしたり、好きな鏝絵を簡単な文で紹介する表現の学習をしたりした。KEY STAGE 3の6年生では、修学旅行先の長崎で外国から来た観光客に平和のメッセージをもらう活動をした。英語圏だけでなくアジア等いろいろな国の外国人に触れ、それぞれが平和を願っていることを知り、国際的視野が広がった。

中学生 京都で地域をPRする学習活動



生徒が作成した地元パンフレット



高校生 東京で外国人観光客へのツアーガイド学習



KEY STAGE 4の
ゴールデンツアーとつながる



【別紙 7】

ゲストティーチャー活動 1

小学生の饅絵ガイドツアーに高校生がアドバイザーとして参加



この授業は、小学4年生が地域の饅絵を知ってもらいたいと思い、観光客などの地域外の人を対象とした饅絵のウォーキングツアーを企画し開催するために、高校生をゲストアドバイザーとして招き、事前学習している様子である。授業の終わりには、意見交流会を行い一人一人の高校生がアドバイスしたり、小学生から質問に答えたりする。小学生、高校生両者にとって解決する力を育成する場になる。

ゲストティーチャー活動 2

小学生に高校生が理科実験をアドバイスする様子



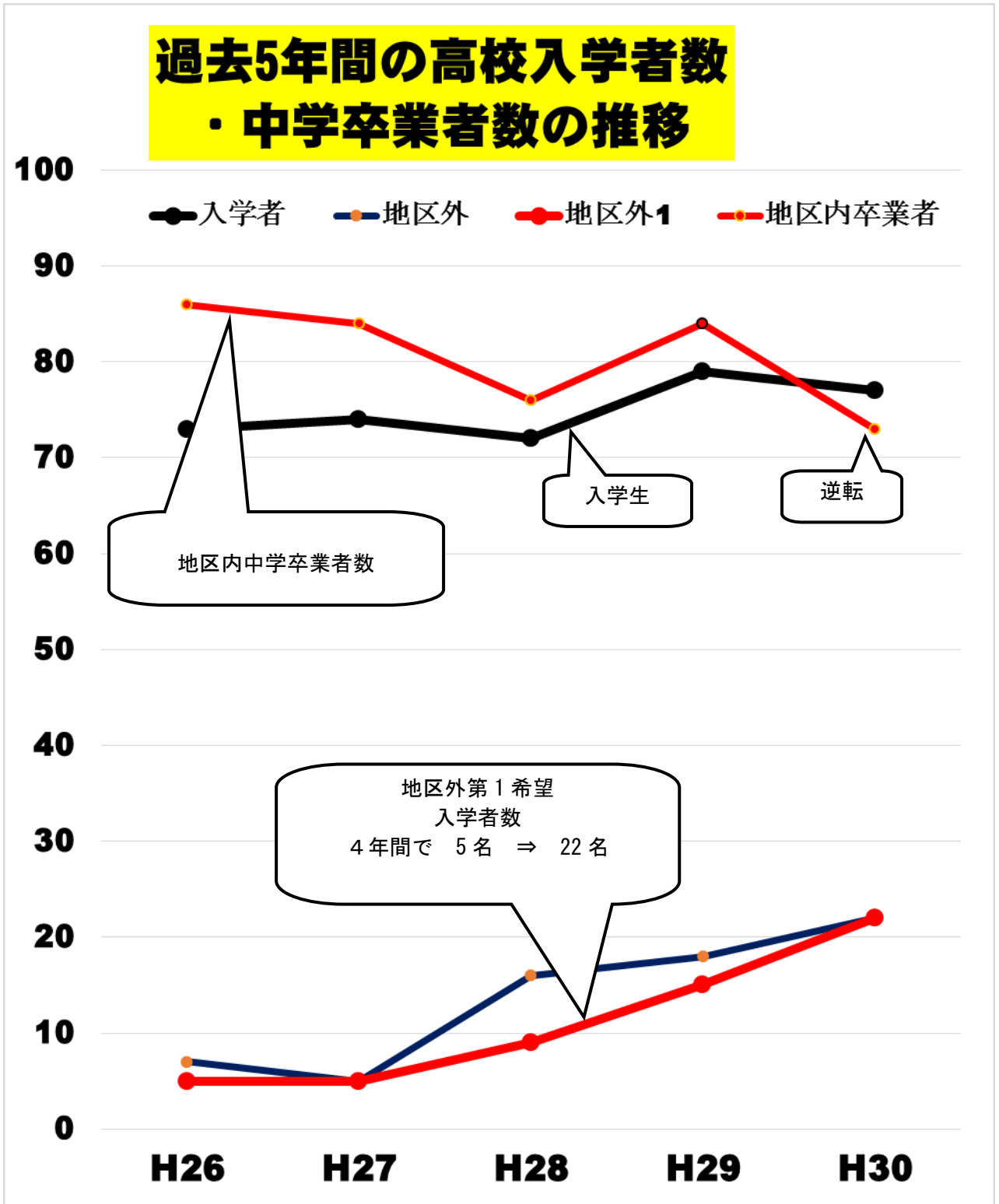
この授業は、高校生が先生となり理科実験について小学6年生を対象に授業をしている様子である。高校生は誰かに教えることで、自分の理解度を客観的にみることができる。小学生にとっては、小規模な4つの小学校が集まり授業を受けることにより、集団の中で発言をしたり行動する積極性が求められる。この授業の中で児童生徒は主体的態度を育成される。

ゲストティーチャー活動 3

高校生が考えた地元の特産物を使ったパン作りを小学生と一緒に取り組む活動



この授業は、高校生が地球未来科と食文化コース課題研究の横断型授業で考えた地域の特産物を活用したパンを小学生と一緒に作ったり、海外と国内の小麦粉文化について一緒に考えたりしている様子である。高校生にとっては、主体的に考え行動する場の設定により、解決する力の育成に繋がることが確認された。しかし、小学生にとってどのような力がつくのか検証が必要であるということが課題として残り、この取組によって双方向から身につけたい力を意識した取組に発展させる必要性を教員が考えるきっかけとなった。



H26 H27 H28 H29 H30

【別紙9】

学校等の概要（平成30年度）

研究歴

(1) 大分県立安心院高等学校・宇佐市立安心院中学校・宇佐市立院内中学校

平成12年～14年度 研究開発学校指定（連携型の中高一貫教育における6年間の一貫性を図る教育課程の創造）
 平成15年～17年度 研究開発学校指定（連携型中高一貫教育による学力の向上と進路指導の充実を図る教育課程の創造）
 平成18年～20年度 研究開発学校指定（名目指定）
 平成22年～24年度 研究開発学校指定（世界基準の確かな学力を育成する小中高一貫した系統性ある教育課程の創造～読解力を基盤とした「リテラシー」の獲得～）
 平成25年度 研究開発学校指定（名目指定）

(2) 宇佐市立安心院小学校・宇佐市立佐田小学校・宇佐市立深見小学校
 宇佐市立津房小学校・宇佐市立院内中部小学校・宇佐市立院内北部小学校
 宇佐市立南院内小学校

平成22年～24年度 研究開発学校指定（世界基準の確かな学力を育成する小中高一貫した系統性ある教育課程の創造～読解力を基盤とした「リテラシー」の獲得～）
 平成25年度 研究開発学校指定（名目指定）

1 学校名、校長名

大分県立^{アジマ}安心院高等学校（全日制普通科）
 安藤 耕平（アノウ コウヘイ）

2 所在地、電話番号、FAX番号

所在地 大分県宇佐市安心院町折敷田64番地 電話 0978-44-0008
 FAX 0978-44-0264

3 学年・課程・学科別幼児・児童・生徒数、学級数

課程	学科	第1学年		第2学年		第3学年		計	
		生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
全日制	普通科	77	2	77	2	67	2	221	6
	合計	77	2	77	2	67	2	221	6
計		77	2	77	2	67	2	221	6

4 教職員数

校長	教頭	事務長	主幹教諭	指導教諭	教諭	養護教諭	講師	非常勤講師	ALT
1	1	1	1	1	19	1	7	10	1
事務職員	事務補佐員	臨時実習教師	臨時農務技師	臨時司書	計				
2	0	1	1	1	48				

1 学校名、校長名大分県宇佐市立^{インナイ}院内中学校

須藤 善夫（スドウ ヨシオ）

2 所在地、電話番号、FAX番号

所在地 大分県宇佐市院内町山城 54 番地

電話 0978-42-5008

FAX 0978-42-5035

3 課程・学科・学年別幼児・児童・生徒数、学級数

第1学年		第2学年		第3学年		特別支援学級		計	
生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
25	1	21	1	32	1	3	2	81	5

4 教職員数

校長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	養護教諭	臨時講師
1	0	1	0	0	8	1	1
非常勤講師	非常勤事務職員	スクールカウンセラー	ALT	主事	学校司書	支援員	計
0	1	1	0	1	1	1	17

1 学校名、校長名大分県宇佐市立^{アジム}安心院中学校

永松 一郎（ナガマツ イチロウ）

2 所在地、電話番号、FAX番号

所在地 大分県宇佐市安心院町下毛 2222 番地の1

電話 0978-44-0004

FAX 0978-44-0078

3 課程・学科・学年別幼児・児童・生徒数、学級数

第1学年		第2学年		第3学年		特別支援		計	
生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数
32	1	41	2	34	1	1	1	108	5

4 教職員数

校長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	養護教諭	栄養教諭	臨時講師	非常勤講師
1	0	1	0	0	9	1	1	2	1
非常勤事務職員	ALT	スクールカウンセラー	主事	学校司書	補助教員	計			
1	1	1	1	1	1	22			

1 学校名、校長名

インナイチュウブ
大分県宇佐市立院内中部小学校
中西 邦紀（ナニシ ケニリ）

2 所在地、電話番号、FAX番号

所在地 大分県宇佐市院内町山城 91 番地 電話 0978-42-5601
FAX 0978-42-5401

3 課程・学科・学年別幼児・児童・生徒数、学級数

第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		計	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
9	1	11	1	4	1	12	1	7	1	8	1	55	9
特別支援学級		上院内分校											
児童数	学級数	児童数	学級数										
1	1	3	2										

4 教職員数

校長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	養護教諭	栄養教諭
1	0	1	0	0	8	1	0
臨時講師	非常勤講師	臨時学校主事	事務職員	支援員	計		
3	0	1	0	0	15		

1 学校名、校長名

インナイホクブ
大分県宇佐市立院内北部小学校
水脇 純一（ミヅワキ ジュンイチ）

2 所在地、電話番号、FAX番号

所在地 大分県宇佐市院内町櫛野 646 番地 電話 0978-42-5201
FAX 0978-42-5607

3 課程・学科・学年別幼児・児童・生徒数、学級数

第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		計	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
12	1	16	1	12	1	16	1	17	1	17	1	91	8
特別支援学級													
児童数	学級数												
3	2												

4 教職員数

校長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	養護教諭	栄養教諭
1	0	1	0	0	9	1	0
臨時講師	非常勤講師	臨時学校主事	臨時事務職員	支援員	計		
1	0	1	1	1	16		

1 学校名、校長名

大分県宇佐市立南院^{ミナミインナイ}内小学校
木村 永生 (キムラ ナガオ)

2 所在地、電話番号、FAX番号

所在地 大分県宇佐市院内町下恵良 687 番地 電話 0978-42-5034
FAX 0978-42-5043

3 課程・学科・学年別幼児・児童・生徒数、学級数

第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		計	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1	1	2		5	1	2		6	1	4	1	20	4
特別支援学級													
児童数	学級数												
0	0	※2・3年、4・5年は複式学級で1クラス											

4 教職員数

校長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	養護教諭	栄養教諭
1	0	1	0	0	3	1	0
臨時講師	非常勤講師	臨時学校主事	事務職員	支援員	計		
1	2	1	0	0	10		

1 学校名、校長名

大分県宇佐市立安心院^{アジム}小学校
岡本 京子 (オカモト キョウコ)

2 所在地、電話番号、FAX番号

所在地 大分県宇佐市安心院町木裳 115 番地の1 電話 0978-44-0025
FAX 0978-44-0167

3 課程・学科・学年別幼児・児童・生徒数、学級数

第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		計	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
8	1	16	1	17	1	26	1	26	1	24	1	121	7
特別支援学級													
児童数	学級数												
4	1												

4 教職員数

校長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	養護教諭	栄養教諭
1	0	1	0	0	9	1	0
臨時講師	非常勤事務職員	臨時学校主事	事務職員	支援員	計		
0	1	1	0	1	15		

1 学校名、校長名

大分県宇佐市立津房^{ツブサ}小学校
坂本 昭彦（サカモト アキヒロ）

2 所在地、電話番号、FAX番号

所在地 大分県宇佐市安心院町五郎丸 380 番地の 2 電話 0978-48-2305
FAX 0978-48-2309

3 課程・学科・学年別幼児・児童・生徒数、学級数

第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		計	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
9	1	1	1	5		2	1	4		7	1	28	4
特別支援学級		←-----→ ←-----→											
児童数	学級数												
0	0	※2・3年、4・5年は複式学級で1クラス											

4 教職員数

校長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	養護教諭	栄養教諭
1	0	1	0	0	4	1	0
臨時講師	非常勤講師	臨時学校主事	事務職員	支援員	計		
0	2	1	0	0	10		

1 学校名、校長名

大分県宇佐市立深見^{フカミ}小学校
恒任 圭一（ツネ ケイイチ）

2 所在地、電話番号、FAX番号

所在地 大分県宇佐市安心院町矢畑 40 の 2 番地 電話 0978-44-4031
FAX 0978-44-4089

3 課程・学科・学年別幼児・児童・生徒数、学級数

第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		計	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
5	1	5		5	1	5		4	1	3	1	27	4
福貴野分校		←-----→ ←-----→											
児童数	学級数												
0	0	※2・3年、4・5年は複式学級のため1クラス ※福貴野分校は、H27年度より休校中											

4 教職員数

校長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	養護教諭	栄養教諭
1	0	1	0	0	4	1	0
臨時講師	非常勤講師	非常勤学校主事	事務職員	支援員	計		
0	2	1	0	1	11		

1 学校名、校長名

大分県宇佐市立佐田^{サダ}小学校
小屋瀬 八重子（コヤセ ヤエコ）

2 所在地、電話番号、FAX番号

所在地 大分県宇佐市安心院町佐田 215 番地 電話 0978-44-0154
FAX 0978-44-0209

3 課程・学科・学年別幼児・児童・生徒数、学級数

第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		計	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
6	1	4		5	1	4		8	1	4	1	31	4

※2・3年、4・5年は複式学級のため1クラス

4 教職員数

校長	副校長	教頭	主幹教諭	指導教諭	教諭	養護教諭	栄養教諭
1	0	1	0	0	4	1	0
臨時講師	非常勤講師	臨時学校主事	事務職員	支援員	計		
0	2	1	0	1	11		

都道府県教育委員会／都道府県私立学校主管課／国立大学法人附属学校主管課

①名称	大分県教育委員会
②住所	〒 870-8503 大分市府内町3丁目10番1号
③連絡先	代表 097-536-1111（内線 5611） 直通 097-506-5607 FAX 097-506-1796 E-mail takahashi-yasunari@oen.ed.jp
④担当者	所属・職名 高校教育課高校教育指導班 指導主事 高橋泰成 義務教育課義務教育指導班 指導主事 舟越宣之